

東海道本線全線電化 70 周年の節目に、『点と線』の時代を時刻表で追体験

高度経済成長の出発点を記録した
『日本国有鉄道監修 時刻表 1956 年 11 月号』『同 12 月号』を
2 冊同時に復刻発売

JTB グループで旅行・ライフスタイル情報を提供する株式会社 JTB パブリッシング（東京都江東区、代表取締役 社長執行役員：盛崎宏行）は、2026 年 11 月に東海道本線が全線電化から 70 年の節目を迎えるタイミングに、ご好評いただいている「時刻表復刻版」の第 16・17 弾として『時刻表大きな復刻版 1956 年 11 月号』と『時刻表大きな復刻版 1956 年 12 月号』を 2026 年 10 月 13 日（火）に 2 冊同時発売します。



■「もはや戦後ではない」日本の大動脈・東海道本線の変化を連続2号で比較

1956（昭和31）年11月19日、東海道本線の米原―京都間が電化され、東京―神戸間の全線電化が完成しました。この歴史的な節目に実施された国鉄ダイヤ大改正により、特急「つばめ」「はと」は東京―大阪間を7時間30分で結ぶように（30分の短縮）。鉄道の高速化・近代化が大きく前進し、その後の特急電車「こだま」、さらには新幹線の開業へとつながる時代の転換点となりました。

本書は、その変革の瞬間を記録した『時刻表 昭和31年11月号』と『時刻表 昭和31年12月号』を大型サイズで復刻したものです。11月号には全線電化完成直前の“最後のダイヤ”、12月号には大改正後の“新しい国鉄”の姿が収められており、わずか1カ月の間に起こった鉄道史上屈指の変化を誌面上で比較しながら楽しむことができます。

[illegible]

1956 年 11 月号(左)と 1956 年 12 月号(右)
主要列車の抜粋ページ

■時刻表から読み解く、日本初の寝台特急「あさかぜ」と『点と線』のトリビア

また、時刻表を題材にした推理小説の金字塔として知られる松本清張の『点と線』が誕生した時代を追体験できるのも本書の魅力です。1957年2月号の雑誌『旅』（当時の日本交通公社発行）から連載スタートした『点と線』でトリックの舞台となったのは、1956年11月19日のダイヤ改正で登場した寝台特急「あさかぜ」。東京―博多間で17時間25分は飛行機や新幹線のある現在からすると長時間ですが、東京―大阪・大阪―博多を日中走る特急の所要時間合計に匹敵する速さでした。「あさかぜ」には1958年、冷暖房完備の新しい20系客車が導入され、日本最初のブルートレインとして一層人気が高まりました。高度経済成長の日本の旅や移動を大きく変えた列車ともいえます。『時刻表復刻版 1956年12月号』の解説ページに書かれた『点と線』と時刻表にまつわるトリビアも必見です。



巻頭には木村嘉男氏（JTB時刻表元編集長）による注目ポイントの解説を掲載

《書誌情報》

【書 名】JTBのMOOK『時刻表大きな復刻版 1956年11月号』

JTBのMOOK『時刻表大きな復刻版 1956年12月号』

【定 価】各2750円（10%税込）

【判 型】B5判

【発売日】2026年10月13日（火）

【発 行】JTBパブリッシング

【販 売】全国の書店、ネット書店

《amazon》

『時刻表大きな復刻版 1956年11月号』<https://www.amazon.co.jp/dp/4533175341/>

『時刻表大きな復刻版 1956年12月号』<https://www.amazon.co.jp/dp/453317535X/>

＜お問い合わせ先＞

JTBパブリッシング ブランド・サステナビリティ戦略室

メール：pr-team@rurubu.ne.jp